



News Letter ☆ PIANC-Japan

国際航路協会 日本部会ニュース

July 2012 (Vol.12-1) The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

1. 国際航路協会年次総会（バレンシア AGA）及び Mediterranean Days 出席報告

PIANC-Japan 事務局長
柳 生 忠 彦

国際航路協会 年次総会（バレンシア AGA）及び Mediterranean Days が 2012 年 5 月 22 日から 25 日まで、バレンシア（スペイン）海岸に面する Las Arenas Hotel（総会）とバレンシア港湾公社庁舎で開催され、出席しましたのでその報告をします。



総会会場のホテル



総会会場の様子



開会の挨拶をする会長

1. 出席者

日本からは、国際航路協会の川嶋副会長と奥さま、国土交通省中部地方整備局・高橋副局長、国土交通省港湾局産業港湾課国際企画室・山本国際調整官、農林水産省水産庁漁港漁場整備部整備課・坪田漁港漁場専門官、安田企画係長、PIANC-Japan 須野原会長と奥さま住友ゴム工業㈱に出向中の成川さま並びに小職の 10 名が参加しました。

2. 総会等の概要

1) 執行委員会（ExCom）

5 月 21 日には会長、4 副会長、事務局長、委員会委員長が出席する執行委員会

（ExCom）が開催されました。

会議の主な概要を下記に記します。（川嶋副会長からの報告）

・RecCom の Training Course として第一回

をイタリアで実施する。

- ・ Working with Nature に該当するプロジェクトの Data base を EnviCom と共同で作成する。

- ・ Climate Change WG Chairperson の交代が必要である。

- ・ CoCom Target Countries について、各地域で対象国を絞り込み、PIANC への入会を働きかける。

- ・ 米州：コロンビアを最重要国とする。スペイン語による広報も重要

- ・ アジア：MRC の国ではベトナムが重要

- ・ アフリカ：ポルトガル圏についてはポルトガルの協力が重要

- ・ ヨーロッパの中でポーランド、デンマーク、スウェーデン等は負担金を払うが活動が低調

- ・ 将来の北極海の Ice Navigation からロシアが対象になる

- ・ 新しい参加国に Working Group への参加を呼びかける

- ・ Major Infrastructure の Database について、調査の趣旨、基準等について詰めて改めて実施する。

- ・ COPEDEC (2016) への資金支援に関し、日本の協力をオフィシャルルートで要請する。

2) 総会 (AGA)

22日の8時30分から17時30分まで総会が開催されました。会議の概要は下記の通りです。

- ・ 会長からの全般報告

- ・ Major Infrastructure の Database 作成について

- ・ 会員増があった

- ・ Target Countries に関する活動について
- ・ 事務局長からの報告

- ・ 事務局長会議報告

- ・ カンボジア、ラオス、ベトナムに対してフラミッシュ政府からの支援が行われている。

- ・ 財務委員会委員長からの報告

- ・ 支出の減 (印刷費の削減) により3万ユーロの黒字となった。

- ・ イギリス、オーストリア、フランスは政府から、会費の支払いが政府からでなく、国内委員会からになる (政府会員としての資格問題も関連する)。

- ・ 予定していた会費の引き上げを2013年に行わなくても済む見込みである。

- ・ 2015年から予定していたフルタイム事務局長の採用について、予算削減の観点からパートタイムにすることも検討する。

- ・ 各委員会委員長による活動報告

- ・ 川嶋副会長の任期終了に伴う新副会長には須野原 PIANC-Japan 会長が選任された。



副会長退任の挨拶をする川嶋氏



副会長就任の挨拶をする須野原会長



セミナーの様

・第7回 World Water Forum は韓国で開催する予定。

・Best Performance National Award はアメリカが受賞した。

・De Paepe Williem 賞は Ir. H. D. Jumelet 氏（オランダ）が受賞した。

・Marina Excellent Design Award は COMBARRO MARINA（スペイン）が受賞した。

・各国（パナマ、スペイン、イタリア、フランス、ポルトガル、日本）からの報告として、須野原会長から「東日本大震災とその後の復旧」についてのプレゼンテーションを行った。

3) Mediterranean Days セミナー

23日から25日までは約100名が参加し、AGAと同時開催の2回目のMediterranean Daysのセミナーが開催されました。

セミナーは7つのセッションに分かれ、35の報告がありました。報告は防波堤や岸壁の構造、模型実験と数値解析、ドライドック、海岸と漂砂、風力発電、環境など広範なものでした。プレゼンテーションはスペイン語あるいは英語で行われ、同時通訳されていました。発表の後の質疑応答は活発で、英語でのプレゼンテーションに対するスペイン語での質問にも通訳を介さず直接スペイン語で答えたり、その逆のケースがあったりしたのが印象的でした。ヨーロッパの人たちのマルチリンガル振りに驚くと共に、このような世界と向かい合う事の大変さを痛感しました。また、発表者の1割が女性であったことも日本では見られないことでした。

セミナーのプログラムを添付します。また、プレゼンテーションのほとんどの資料は印刷物とCDで配布されました。CDについてはPIANC-Japanのホームページにアップします。

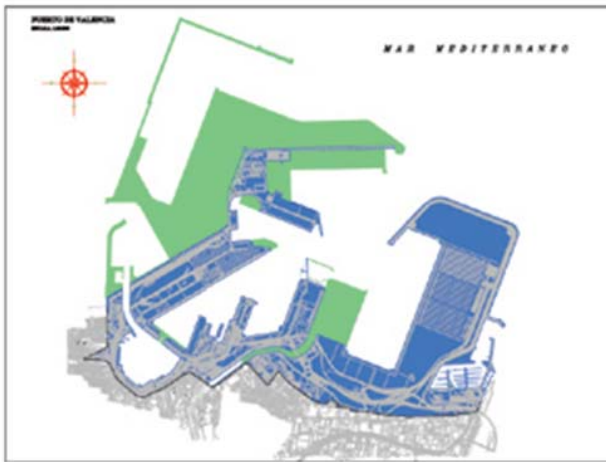
セミナーの一環としてバレンシア港の視察プログラム(1時間半)がありました。

バレンシア港の歴史は古く、1491年に開かれ、現在の港湾の平面図は下記の様になっ

ています。コンテナの取扱量は年間 420 万 TEU でスペインでは 1 番、ヨーロッパでも 5 番目の取扱量を誇っています。最近、港の海側に全長 4 km 程度の防波堤とふ頭の建設が完了しました（緑で示した部分）。視察の船上での説明によると、この防波堤を僅か 2 年で、200 億円で完成させたということです。



バレンシア港の新設ケーソン式防波堤



バレンシア港の平面図



バレンシア港内のコンテナふ頭

2. 第43回理事会、第39回総会、24年度報告会が開催されました。

事務局

2012年6月22日(金)、霞山会館において第43回理事会、第39回総会、24年度報告会が開催されました。

資料はPIANC-Japan ホームページ (www.pianc-jp.org) の News Letter Vol 12-1 に添付しています。

主な決定事項は次の通りです。

(1) 役員を選任と顧問の委嘱

役員の変更時期にあたり、次のように役員が選任され、顧問が委嘱されました。

なお、会長は須野原 豊、副会長は高橋重雄が再任されました。

理事・監事・顧問の名簿

(敬称略、順不同)

会 長	須野原 豊	(株)神戸製鋼所 常任顧問
副会長	高橋 重雄	(独)港湾空港技術研究所 理事長
理 事	浦辺 信一	国土交通省 国土技術政策総合研究所 副所長
〃	岡田 光彦	(一財)国際臨海開発研究センター 理事長
〃	影山 智将	(財)漁港漁場漁村技術研究所 理事長
〃	川嶋 康宏	新日本製鐵(株) 顧問
〃	鬼頭 平三	(社)日本港湾協会 理事長
〃	黒田 勝彦	神戸大学名誉教授
〃	高山 知司	(一財)沿岸技術研究センター 沿岸防災技術研究所長
〃	田中 潤兒	(社)全国漁港漁場協会 会長
〃	灘岡 和夫	東京工業大学大学院 情報理工学研究科 情報環境学専攻教授
監 事	村重 芳雄	(社)日本埋立浚渫協会 会長
〃	池田 龍彦	国際港湾交流協力会 企画委員長
顧 問	鶴谷 広一	三井共同建設コンサルタント(株) 技術顧問
〃	井上 聡史	政策研究大学院大学 客員教授
〃	大久保喜市	(社)日本潜水協会 顧問
〃	土田 肇 元	(社)港湾荷役機械システム協会 会長
〃	成瀬 進	国際港湾協会 事務総長
〃	西田 幸男	国際港湾交流協力会 会長
〃	野田 節男	(一財)沿岸技術研究センター 顧問
〃	藤野 慎吾	全国浚渫業協会 会長
〃	御巫 清泰	特定非営利活動法人 港湾保安対策機構 会長

(2) 企画委員会の設立

従来活動していた企画小委員会と運営委員会を再編して企画委員会を発足し、PIANC-Japan の運営に関する企画立案を行うことになりました。
 企画委員会の構成は下記とおりです。

企画委員会構成

(敬称略、順不同)

委員長	村岡 猛	国土交通省 港湾局 産業港湾課 国際企画室長
副委員長	田中 知足	国土交通省 港湾局 技術企画課 技術監理室 技術基準審査官
委員	麻山健太郎	国土交通省 国土技術政策総合研究所 管理調整部長 企画調整課長
〃	岩波 光保	国際航路協会本部 若手技術者委員会日本代表
〃	雅楽川昌則	(一財)みなと総合研究財団 研究主幹
〃	大内 久夫	国際航路協会本部 国際協力委員会日本代表
〃	川上 泰司	(独)国際協力機構 経済基盤開発部 技術審議役
〃	鈴木 勝	(一財)国際臨海開発研究センター 研究主幹
〃	坪田 幸雄	農林水産省 水産庁 漁港漁場整備部整備課 漁港漁場専門官
〃	中村 由行	国際航路協会本部 環境委員会日本代表
〃	西本 光宏	(財)港湾空港建設技術サービスセンター 研究主幹
〃	樋口 嘉章	国際航路協会本部 海港委員会日本代表
〃	藤野 真	東亜建設工業(株) 土木事業本部 副本部長 ((社)日本埋立浚渫協会)
〃	松永 康司	(独)港湾空港技術研究所 企画管理部 企画課長
〃	間辺 本文	(社)水産土木建設技術センター 審議役
〃	村田 拓也	東京都 港湾局 港湾整備部 計画課長
〃	八畝 隆	(一財)沿岸技術研究センター 国際沿岸技術研究所 所長
〃	山下 雅人	(一社)日本マリーナビーチ協会 調査研究部長
〃	吉田 哲生	(株)日本港湾コンサルタント 海外事業本部長 ((一社)港湾技術コンサルタンツ協会)
〃	渡辺 薫	五洋建設(株) 国際事業部長 ((社)日本埋立浚渫協会)

3. De Paepe-Willems 賞論文応募の案内

事務局

我が国若手技術者（40歳以下）の De Paepe-Willems 賞の受賞は現在までありません。その応募要領は下記のとおりです。是非、我が国からも受賞していただきたく、会員の皆様の応募を期待しています。

PIANC De Paepe-Willems Award 応募要領

2012.6 (PIANC Regulation 抜粋)

1. 目的

40歳以下の若手技術者（Young Professional(YP)）が PIANC に技術論文を出すことを奨励する。

2. 論文の対象

論文は PIANC の活動分野のものを対象とし、オリジナルで実用的な技術内容であること。

3. 論文審査

- ・執行委員会（ExCom）が4人の審査員を指名する。
- ・議長は ExCom メンバーとし、他の審査員は専門家とする。
- ・論文は毎年8月31日までに提出すること。

4. 審査基準

1) 技術専門家にとって興味のあるテーマであること。

- ・テーマが如何に時宜を得たものであるか？
- ・結論がどの程度他の同様の問題に適用できるか？
- ・研究から得られた教訓が明確になっているか？

2) 論文が実務上、どの程度貢献しているか？

- ・研究の成果がどの程度先端的なものであるか？
- ・実験的分析や現場から得られた結果がどの程度再現性のあるものか？

3) テーマのオリジナリティー

- ・執筆者の視点が論文テーマと同種の既存の論文と比較して、どの程度独自性のあるものか？
- ・論文が現場適応性についてどの程度論じているか？

4) 論文がどの程度論理的で、簡便で、理解しやすいか？

- ・論文がどの程度文法的に正しく、技術的に書かれているか？
- ・論文が冗長でないか？
- ・論文がステップごとにどの程度論理的に完結したものになっているか？

5. 賞の内容

- ・賞金 5,000 ユーロと5年間にわたる会費の免除
- ・年次総会（AGA）において賞が授与される。共同執筆の場合は、主執筆者が受賞する。
- ・受賞者は AGA に招待され、AGA で論文を発表する。
- ・受賞論文は PIANC 機関誌あるいは Yearbook に掲載される。

6. 応募の条件

1) 応募者

- ・論文提出の年の12月31日現在で40歳以下であること。
- ・8月31日までに所定の様式を添付して論文を提出すること。
- ・論文執筆者あるいは共同執筆の主執筆者であること。

2) 提出論文

- ・図などを除いて8,000語以内であること。
- ・20ページを超えないこと。
- ・“Guideline to the Authors”に従い、要約を含めて英文で提出すること。

4. PIANC-Japan 会員、入会へのお誘い

PIANC-Japan の組織強化の一環として会員を増やす努力を重ねて参っております。

「入会のお誘い」のためのパンフレットを下記のように用意いたしましたので、会員の皆様におかれましても、会員数の拡大にご協力いただきたくお願い申し上げます。

PIANC（国際航路協会）入会へのお誘い

PIANC 日本部会

PIANC とは；

PIANC (World Association of Waterborne Transport Infrastructure)は、港湾・内陸水運・海岸に関する技術的な研究をすることを目的に 1885 年に設立された国際的機関です。港湾・内陸水運・海岸に関する技術的課題は各国専門家から構成されるワーキンググループ (WG) で研究され、その成果は基準などとして発刊され、各国において活用されています。本部はブリュッセル（ベルギー）にあり、会員数は政府会員 37、65 か国から団体会員約 450、個人会員約 1,900 となっています。各国には本部の活動を支援することを目的として国内部会が設立されていて、現在 23 カ国で設立されています。

我が国においても、1977 年国内部会 (PIANC-Japan) が設立され、現在の会員数は団体会員が 51、個人会員は 141 名となっております。本部並びに国内部会の年会費（本部と日本部会分を含む）は個人が 15,000 円、ただし、40 歳以下の会員は 5,000 円、また、団体は 153,000 円です。

PIANC に入会すると；

PIANC に入会すると、次の様な特典があります。

1. 国際航路会議(Congress) (4 年ごとに開催)、年次総会 (AGA) (毎年開催) に出席し、最新の港湾・内陸水運・海岸に関する研究成果の情報を入手できます。
2. Congress や AGA や PIANC Magazine に論文を投稿できます。
3. 論文投稿に必要となる英文等への翻訳費用を日本部会が補助します。
4. PIANC 本部で設立される WG の研究に参加できます。WG 参加のための旅費等の補助を受けられます。ただし、1 回につき 25 万円を限度とします。
5. PIANC 本部の WG において研究するテーマを提案することが出来ます。
6. De Paepe-Willems 賞 (DPWA) 論文 (賞金€5,000) への応募が出来ます。ただし、会員または団体会員に所属する者で 40 歳以下の者に限ります。
7. PIANC Magazine、WG 報告書、Yearbook 等の国際航路協会出版物を取得できます。
8. Eメールアドレスを登録することにより PIANC 本部及び PIANC-Japan の Newsletter の配信を受けられます。
9. PIANC-Japan が開催する総会、報告会、懇親会に参加し、最新の技術情報を取得すると共に、会員相互の情報交換をしていただけます。

PIANC への入会をして頂けますよう、お願い申し上げます。

なお、詳細は PIANC-Japan のホームページ (www.pianc-jp.org) をご覧ください。

5. Working with Nature Award について

PIANC では Working with Nature (自然との共生) のコンセプトの下、このコンセプトに相応しいプロジェクトを表彰する制度を作っています。その制度の概要は添付の様なものですので、会員の皆様におかれましても、このコンセプトに相応しいプロジェクトのご推薦をお願い申し上げます。

Working with Nature Award について

EnviCom 日本委員 港湾空港技術研究所 中村由行

1. Working with Nature とは？

PIANC 全体の環境への取組のスタンスを示す position paper

EnviCom が原案を作成し、ExCom で承認。2010 年 PIANC_Japan 総会でも内容紹介。
2011 年に改訂し、その日本語訳は中村が担当 (PIANC ホームページに掲載)

www.pianc.org/workingwithnature.php

主要な考え方

- 1) プロジェクト計画段階からの対象水域の環境特性の把握
- 2) プロジェクト関係機関・団体の計画段階からの参画による win-win な解決
- 3) プロジェクトの目的の達成と環境保全の両立を目指した計画の推進

2. Award のねらいと手順

Working with Nature の考え方を活かした港湾関連のインフラ整備プロジェクト等に対してそれを顕彰し、Working with Nature の理念の普及を図る。

手順：PIANC WwN データベースへのプロジェクト応募 (内部のみ閲覧)

→審査委員会による審議 (6 カ月おき? にメール審議)

→WwN の理念に沿うプロジェクトの認証 Label of recognition

→WwN のオープンサイトへの掲載

→認証されたプロジェクトの中から、2 年または 4 年おきに Award (3 件程度) 選定

→Award winner による PIANC Congress での発表

3. 準備状況 (2012 年 5 月 21 日開催の ExCom での承認時点)

Working with Nature の corresponding group の結成 (Chair: J. Brook)

候補になりそうなケーススタディーの収集とデータベースの作成

Awarding の準備

審査委員会メンバーの選任 Jury member

各常設委員会 EnviCom、MarCom、InCom、RecCom から選任 (現在 6 人態勢)

+オブザーバー

Label of recognition 認証制度

認証ロゴ

今後のスケジュールの案

一連の手順案を確定 (6/30 ごろまで?)

審査委員会による予備的な審査・審査規定の整備（～9/1頃）

ExComでの認証制度の確定（～9/15頃）

公募開始（10/1頃～）

関連機関への周知・広告

次期 EnviComでの審議（10/4）

4. 現在データベース用に収集したプロジェクト

Flood Spillway Rees, River Rhine, Germany

The Broads, Norfolk & Suffolk, UK

Thorsminde Harbour, West coast of Denmark

Lengthening of “Grand Canal du Havre” adjacent to a nature reserve, Le Havre Port,
France